

活人形

豊島与志雄

青空文庫

むかし、インドに、ターコール僧そうじょう正まというえらいお坊さまぼうさがいました。むずかしい病びょう氣きをなおしたり鬼おにをいはらったり、ときには、死人しにんをよみがえらしたりするほど、ふしぎな力をそなえていられるという評ひょうばんでした。そしてたいへん慈じ悲ひ深ふかくて、なんでも貧びん乏ぼうな人たちにめぐんでやり、自分でしは、弟子でしの若わかいお坊ぼうさんと二人きりで、大きな、ぼだい樹じゆのそばの小さな家に、つましく暮くらしていました。

そのターコール僧そうじょう正まが、ある日、庭にわのぼだい樹じゆのこかげの

ベンチに腰をおろして、休んでいますと、みすぼらしいなりをした、年とつた男がたずねてきました。悲しそうなおどおどしたように、僧正様にお祈りをしていただきたいと申すんです。

「お祈りはわたしの仕事だ。してあげましょう」とターコール僧正は答えました。

男はしばらくもじもじしていましたが、顔をふせていました。「お礼のお金をもっておりませんが、ただでお祈りをしてくださいまししょうか」

「お祈りはわたしの仕事だ。お金がなくてもしてあげましょう」僧正は答えました。

男はしばらくして、またいいました。

「ここではございません。わたくしどもの宿まできてお祈りをし
てくださいますようか」

「お祈りはわたしの仕事だ。行ってあげましょう」と僧正は
答えました。

男はしばらくしてまたいいました。

「わたくしのためにはございません。人間のためにはござい
ません。こわれかけた大きな人形が一つございます。そのために
お祈りをしてくださいましょうか」

「お祈りはわたしの仕事だ。その人形のためにしてあげましょう」
と僧正は答えました。

男はうれしそうに、眼をかがやかして、僧正の顔をながめ

ていいました。

「ほんとうでございますか」

「お祈りはわたしの仕事だ」と僧

正

はほほえんで答えました。

「一文もお金をもらわなくても、あなたの宿まで行って、そのこ

われかけた人形のために、お祈りをしてあげましょう」

二

大きなぼだい樹のあるターコール僧正の家から、一里ばかり

りはなれた町のはずれに、きたない宿屋がありました。見すばら

しい年とつた男は、そこへ僧正を案内してきました。そし

てみちみち、僧そうじよう正へ自分の身みの上を話しました。

彼はかれコスモといつて、女にようぼう房のコスマと二人で、諸国しよこくをへ

めぐっている人形にんぎようつかい使つかいでした。天気の良い日町や村の広場に

人をあつめて、コスモが人形おどを踊らせ、コスマがマンドリンをひ

いて、いくらかのお金をもらい、そして方々たび旅をしてあるいてい

るのでした。ところが、そういう生活せいかつは時がたつにつれて、は

じめほど面おもしろ白しろいものではなくなってきました。天気は毎日晴はれ

るものではありませんし、お金はいつももらえらるとはきまりませ

ん。それに方々の土地とちも見つくしてしまいました。だんだん年も

とつてきました。人形もこわれかけました。いつそ故郷こきようへ帰かえつ

て、そこで百ひやくしやう姓せいをしてる息子むすこのところ、残のこった生しやうがいを送おく

ろう、とそう二人は相談そうだんしました。

ちようどそのとき、この土地とちにたいへんえらい坊さまぼうがいられるということきを聞いて、二人は、今まで自分たちを養やしなつてくれた人形のため、その坊さまぼうにお祈いのりをしていただいて、そして故こきよ郷うへ帰かえろうと思つたのでした。

そういう話を、ターコール僧そうじよう 正まはにこにこしながら聞きいていました。

宿屋やどやについて、奥おくのせまい室へやにはいつていきますと、コスマはほんやり考えこんでいました。

「僧そうじよう 正まさまがいらしたよ」とコスモは大きな声でいいました。コスマはびっくりして飛とびあがるようにたつてきて、ターコー

ル 僧 正 を迎えました。

僧 正 はあまりよけいな口をききませんでした。そしてすぐに尋ねました。

「人形は？」

「はい、これでございます」

コスモとコスマは、室のすみの釘にさがつてる人形のおおいを取りました。赤と黄と緑と青と紫との五色のしまのはいった着物をつけ、三角の金色の帽子をかぶり、緋色の毛靴をはいて、ぶらりとさがっていました。その帽子や着物や靴はもとより、顔や手先まで、うすぐろくよこれていて、長年のあいだ旅をしてあるいたようすが見えています。

僧 正そうじょうはそれをじつとながめました。

「お祈いのりをしてあげましょう」

僧 正そうじょうは紫むらさきの衣ころもをきました。人形の前に香こうをたき、ろうそく

の火をともしました。そしてじゆずをつまぐりながら、祈いのりをはじめました。窓まどからさしてくるぼーっとした明るみのなかに、香こうの煙けむりがもつれ、ろうそくの火がちらついて、僧 正そうじょうの祈いのりの声はだんだん高まってきました。

人形が、びくりと動うごいたようでした。はげかかつてうすよごれおのしてるその顔かおに、ろうそくの光ひかりがうつつて、ほんのり赤みがさしてきます。眼めが大きくなります。今にも口をききそうです。その口元もとにはもう、やさしい笑えみをうかべています……。僧 正そうじょう

の祈りの声は高く低くつづきます。

コスモとコスマは、びっくりしたような気持で、人形の顔に見入っていました。もう眼をそらすことができないで、いつしんに見入っていました。僧正の祈りの声と、ろうそくの光と香の煙のなかで、人形がうっとり笑いかけたとき、コスモとコスマの眼からは、涙がはらはらと流れました。そして涙を流しながら二人は、人形の顔を見つめていました。

三

ターコール僧正のお祈りで生きあがった人形……活人

形う……。

そういううわさで、町はわきかえるようなさわぎでした。そしてその活人形いきにんぎようの踊りおどを見ようとおもって、町の人はもとより、近在きんざいの人まで、美しく着かぎうつくつて、町のにぎやかな広場に集つてきました。

見物人けんぶつにんたちが美しく着かぎうつくつてゐるのにくらべて、人形にんぎようつか

使いの方はひどく粗末そまつななりでした。コスモはなんのかぎりもな
い色のあせた黒い服くろふくをつけ、まんなかにすりきれたふさのついで
る大黒帽だいくろぼうをかぶり、木靴きぐつをはいていました。コスモは、赤茶あかちや
けた服ふくをつけて、古いマンドリンをかかえていました。そして広
場の中には、うすいむしろがしいてあるきりでした。

けれども、コスモもコスマもいっしょうけんめいでした。その日にやけた年とつた顔かおには、いつにない若々わかわかしい元気がうかんでいました。彼は額かに汗あせをにじましながら、つよい調子ちようしでいいました。

「わたくしは、もう人形にんぎよう使つかいをやめまして、故郷こきように帰かえるつもりでおりました。この人形ひとさまも、もう人様ひとさまにお目めにかけないつもりでおりました。ところが、ターコール僧そうじよう正たださまのことをききまして、わたくしどもを長いあいだ養やしなつてくれましたこの人形ひとさまのために、一度ひとお祈いのりをしていただきたいと考えました。そして僧そうじよう正たださまに願ねがいいたしました。僧そうじよう正たださまはすぐに承し知ちしてくださいました。わたくしどもの宿やどまできてくださいま

して、人形のためにお祈りをしてくださいました。そのお祈りのさいちゆうに、この人形はいきいきとした顔になつて、わたくしどもに笑いかけました。わたくしは、わたくしどもは、それをはつきり見ました。ほんとうに笑いかけました。生きあがりました。わたくしどもは、ただうれし泣きに泣きました。……そして、人様のおすすめにやりました、この人形を、ターコール僧正さまのお祈りで生きあがつたこの人形を、さいごに一度だけ、みな様にお目にかけることにいたしました……」

それは、いつも人を呼びあつめるこっけいな道化たあいさつとは、まるつきりちがった調子でした。見物人たちはへんな気がしました。そして、コスモが人形をそこへもちだしたのを見ま

すと、ふしぎでした。古いはげかかった人形の顔が、なるほど、いきいきとしていて、笑つてるようです……。

その人形の踊りが、またすばらしいものでした。年とつたやせたコスモの手であやつられてるとは、どうしても思えませんでした。眼をみひらき、はれやかに笑いながら、だんだんはげしく、しまいにはまるで気でもちがったように、踊りまわりました。日の光に、金色の三角帽がきらきらとかがやき、五色の着物がにじのようにかがやきました。どう見ても、生きた人形が自分で踊つてるのでして、コスモはただそれについてまわつてるだけでした。マンドリンをひいてるコスモも、人形を踊らせるためにひいてるのではなく、人形からむりにひかせられてるようでした。

見物人たちは、人形の踊りに見とれて、夢をみてるような気持になり、声をたてるものもなくただうつとりとじていました。コスモもコスマもむちゆうでした。もう息もつけませんでした。そしてとうとう、踊りのさいちゆうに、コスモは力がつきてぱったり倒れてしまいました。同時に、コスマのマンドリンも、ぷつりと糸が切れました。

人形だけが、はれやかに笑いながら、ひとりで立っていました。

四

コスモとコスマとは、人形を大事にかかえて、故郷へ帰って

いきましました。たくさんもらったお金を、半分ばかり、ターコールそうじよう

僧 正へおくりました。

ターコール僧そうじよう 正は、お金をたくさんもらつても一文もんも、も

らわなかつたときと同じように、別べつにふしぎがりもしませんでしたし

た。そしてそのお金をみんな、貧乏びんぼうな人たちにめぐんでやりま

した。それから、二人の人形にんぎようつかい 使のために祈いのりをしてやり

ました。

ターコール僧そうじよう 正いのがお祈りをしてるとき、コスモとコスマと

は、故郷こきようへの旅たびをいそいでいました。コスモはいいました。

「ありがたい僧そうじよう 正さまだ」

「ほんとにありがたい僧そうじよう 正さまです」とコスマは答こたえました。

コスモはしばらくしてまたいいました。

「この人形は、わたしたちのためには、だいじ大事な人形だ」

「ほんとにだいじ大事な人形です」とコスモはこた答えました。

そして二人は、うち晴れた日の光をあおいでこきよう故郷へのたび旅をいそぎました。

青空文庫情報

底本：「天狗笑い」晶文社

1978（昭和53）年4月15日発行

入力：田中敬三

校正：川山隆

2006年12月31日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

活人形

豊島与志雄

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>